

第2回和倉温泉護岸復旧会議 議事概要

日 時：令和6年7月23日（火）14：00～15：30

場 所：和倉温泉お祭り会館 2階 会議室

【主なご意見等】

1) 現在の対応状況

特になし。

2) 護岸の復旧方法

- 旅館側から護岸際で釣りをする場合があるが、資料2のP. 3右上の復旧方法では、藻場が造成される水深はどの程度か。また、景観の観点で、浅場付近にブイが設置されるか。
- 護岸復旧の工期が非常に大事。耐久性の高い護岸を早期復旧できる方法でお願いしたい。
- 藻場を造成しても、将来被災したら藻場がなくなることにならないよう、最初の造成段階から連携したい。
- 資料2のP. 3右上の復旧方法で、捨石の設置範囲は、小さい方が良いが、どの程度か。
- 資料2のP. 3右上の復旧方法は、他の方法より工期が短い分費用は高いのか。
- 隣接する区間で異なる復旧方法ではなく、同じ方法で一連で施工する方が復旧しやすいという認識なので、双方に合わせ同じ方法に変更する。
- 修繕工事を進めることで早期の営業再開を目指し、それが和倉温泉全体の復興につながることを期待している。また、営業再開時の参考として具体的な工事内容をご提供いただきたい。
- 可能な旅館は早期再開が望ましいが、まちづくりの観点では安全性の確保も重要であり、必ずしも早期再開が良い訳ではない。復旧・復興には一定期間が必要なため、復興支援のため復旧期間中でも観光客が訪れるよう工夫が必要ではないか。
- 資料2のP. 3右上の復旧方法で、仮設道路の設置から護岸復旧までの期間はどの程度か。護岸全体の復旧が完了するまで仮設道路は設置されているのか。
- 資料2のP. 3右上の復旧方法で、水深が浅い箇所では捨石が高くなると思うが、捨石投入時の土砂の舞い上がりを考えると設置範囲は小さい方が良い。
- 和倉温泉全体が早く復旧・復興できるよう、各旅館で工夫して協力していくことが必要。
- 国・県・市が同じ方法で、護岸全体の復旧を行うのか。

3) 今後の進め方

特になし。

【まとめ】

- 本日説明された護岸の復旧方法について、今後、旅館等関係者の最終的な意向を確認する。
- 本日のご意見等も踏まえつつ作成した護岸復旧方針について、次回会議で検討する。